

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>開所時より、「誠心」という理念のままきている。以前より、具体的かつ地域生活の継続を支えるための理念に作り変えると話をしているが、未だ至っていない。</p>	○	地域と関わり続けるという意味での理念は、検討中である。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>日々の業務内、ミーティング等でも常に話している。そのため、業務内容の改善はよくある。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>地域の中で・・・ということは、運営推進会議等で機会あるごとに話をさせてもらっているが、具体的な実施までは至っていない。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>散歩や買い物、また、通勤時に声をかけたり、かけられたりするようになった。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会に入っており、自治会の清掃に参加したり、できるだけ、協力させてもらっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等では、地域の方から事業主の医師へ、老人会等で健康についての講演をして欲しいと依頼があった。地域が高齢化していると聞いているが、具体案はまだ出ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設の向上に生かすため、ミーティングや勉強会の材料となっている。(十分できていないところの検討)		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告やそれについての意見は、毎回いただいている。	○	現状として、運営推進会議ではまだまだ施設、地域、家族からは検討事項が多くあがっていない。外部評価を活用していきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に用事で行く機会があれば、グループホーム担当者の所へ行き、内部の情報を聞いてもらうこともある。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の勉強会ではまだ話をしたことがない。入居者、その家族にも情報提供したことはない。(これまで対象者がいなかった)	○	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	詳しい内容までの勉強会はしたことがないが、虐待防止の意識は、常に職員には意識してもらっている。	○	管理者をはじめ、職員と再度、虐待防止知識に関する勉強会を実施したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	〇	今後、どうすれば簡単に分かりやすい説明になるか、取り組んでいきたい。
13	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	〇	利用者の声や態度の変化を、よく聞いたり、気づいたりしてくれている。
14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	〇	来訪時には、近況を報告している。また、1か月に一度は金銭管理の確認のサインをいただいている。体調不良や新たに治療が変更となった場合には、電話連絡をしている。
15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	〇	今後は、家族同士が、意見や苦情を気兼ねなく話し合える環境設定が必要だと思う。
16	〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	〇	月1回ミーティング等を行っているが、未だ一方的な意見の報告が多いかもしれない。気をつけたい。
17	〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		ニーズに合わせたローテーション作りは常に検討しているが、なかなか定まらないのが現状である。そのため、その都度対応していくという形をとっている。職員からの提案も多く、参考にしている。
18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		馴染みの職員が対応することが重要と考えているが、離職が相次ぎ、迷惑をかけることもあった。家族への対応は十分だったとはいええないが、ケアに支障がないよう、申し送りやスタッフの教育等は日々行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップのための研修は、機会あれば受けてもらえるようにしているが、思うように行けていないのが現状である。			
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は数は少ないが、行く機会がある。しかし、全ての職員が参加できていないのが現状である。		○	職員にも意欲があり、他の施設を見たり、勉強してみたいという声を把握している。見学等をお願いしたことはあるが、今後も続けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心がけてはいるが難しい。介護内容や勤務体制、休暇が思うように取れない等が原因となって、ストレスのもととなっている。ミーティング等で、少しずつは良い方向へなるよう提案しているつもりだが、これからも継続して行っていきたい。			
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が良くしてくれると評価してくれているが、本人まで届いているかは分からない。また、やりがいや向上心が持てるような状態かと言われれば、そうではないと思う。考えていきたい。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の訪問で顔を覚えてもらったり、ケアマネージャーが情報収集し、共に対応してくれている。			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、また、入居後すぐに電話連絡等をこまめにやっている。			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのサービス利用状況や、家族の苦労等の経緯については、よく聞くようにしている。どのような対応ができるか、事前に話し合いをして、サービスの支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までに時間をかけての入所(他のサービスを併用してから)はなく、入所してからのサービスでの試行錯誤が多かった。	○	本人や家族の来所が可能な方には、入所前に見学してもらっていた。また、来所できない方については、必ず入所前に何度か会いに行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若いスタッフが多く、スタッフのことをかわいがってもらったり、また、頼ってあげたり、入居者に教えてもらうという場面をつくるよう心がけている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や体調等の情報交換は常にしている。「この前は・・・だったけど、今日は○○だった」と、家族の方より面会時の出来事等をよく話してもらえるようになった。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時などは、本人と家族の間に入り、行事等に家族を誘ったりして、よりよい関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時や入所後も、馴染みの物の持ち込みや状況設定を継続して行えるよう、環境作りの情報提供や設定をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係がうまくいくよう、声かけをしたり、環境を整えたり(席替え等)、調整している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<input type="checkbox"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移った方へは、面会に行きながらフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけ、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族等から情報を得るようにしている。		
34	<input type="checkbox"/> これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの発言や家族、知人の面会時などにも折に触れ、少しずつ把握に努めている。		
35	<input type="checkbox"/> 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	体調、バイタルサイン、表情、行動、食事量や排便の有無、発言等を朝夕2回の申し送りで報告し、日々のケアにつなげていくよう、心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い、意見を聞き、反映させるようにしている。また、申し送りやカンファレンスで話し合っていることも、ケアプラン作成に活かしている。		
37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変われば、終了する前であっても検討、見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し、全ての職員が、継続した情報を共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の指定は受けていないが、24時間、主治医の医師が対応してくれており、利用者の負担となる受診や入院の回避等は、本人、家族の状況に応じて柔軟に対応してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の利用は、今のところほとんどしていない。	○	ボランティア等のお願いは、地域の人などに相談し、お願いしているが、なかなか難しいとのことの返事である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行きつけの美容室がある人以外は、本人・家族の希望により、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、支援に関する情報交換、協力関係を築いている。	○	地域包括支援センターの職員より、介護サポーターの受け入れの話をいただいている。利用者の買い物や散歩等、十分対応できていない所の補助をお願いしたいと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望しているかかりつけ医となっている。受診や通院は基本的には家族をお願いしているが、必要ならば、代行もしくは、同行するようにしている。利用契約時に説明し、同意を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設内での対応、指示や助言をもらえるよう、家族と一緒に通院介助するようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体クリニックより、看護師が処置が必要な場合には往診に来てくれている。往診回数多く、気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはスタッフが見舞うようにし、また、情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	たとえ医療の治療が必要な方、老衰により寝たきりになられた方など、家族、本人、スタッフ、主治医がカンファレンスを行い、その方が最も良い方法をとるということを常に話し合い、共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当施設は1ユニットで、夜間時スタッフ1人が9人の入居者の世話をしているため、力量に限界がある。しかし、家族の方、スタッフ、主治医との十分な話し合いのうえ、できる限りの支援をすることを検討している。また、完全な医療連携がとれるように準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活が継続できるよう、生活環境支援の内容、注意が必要な点などを情報提供し、連携をとるよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>人前での介護や誘導の声かけ、プライバシーの配慮に心がけ、日々スタッフ同士が気をつけるよう、意識づけしている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>自己決定できるようにする選択肢の提案が未だ少ない。まだまだ職員で決めたことが多い。</p>	○	環境の整備や人員、スタッフの意識づけを強化していけば、増えると思うので、早急に対応する。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>基本的な1日の流れはあるが、体調や気分によって対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>以前は近くに行きつけの美容室を持っていた人がいたが、現在では金銭的なこともあり、皆、当施設が頼んでいる所で済まされている方が多い。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>調理、後片づけは、できること、得意なことからしてもらえよう、スタッフと共に行っている。その中での会話を大事にしている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつ、飲み物に関しては、個々にではなく、同じ物を提供している。ただし、家族からの持ち込みや、個々に買い物等で買った物に関しては、個人で楽しめるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣、体調等から排泄に関する申し送りを毎日している。また、排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックを行い、入浴を行っている。無理強いせず、できるだけ希望どおりに入ってもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はその人に任せている。誘導や添い寝が必要な方には、個々に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な物、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者とはいえませんが、できる人に関しては、時々、買い物に連れて行き、楽しみやストレス発散してもらっている。	○	お金を持つことで安心感や満足感が得られるなら、できないことへの支援を増やしてあげる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の祭りや花見等、見学、ドライブに行き、楽しい時間を過ごさせている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近場等には対応できるが、遠方は家族の協力がないと難しい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から特に訴えないので自らは連絡をとっていないが、たまたま家族の方から電話があった時は、電話を代わり、声を聞いてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただけるよう、声かけをしている。居室等と一緒に飲んでもらったり、自由な時間を過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作り、常に学習している。また、日々の申し送り等で、ケアを振り返り、身体拘束が行われていないか検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、通るとチャイムが鳴ることで、安全に配慮している。外出しそうな様子を察すれば、一緒に行ったり、さりげなく声かけし、安全に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、職員は分散し、常に入居者の様子と位置が分かるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同の場で使用する洗剤等は保管場所を決め、場から離れる時には鍵をかけたりして対応している。見守り等で対応可能な物や状況があれば、必要な物は使用できるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作り、提示しているが、熟知しているかと言えば、少し問題である。事故発生後、報告書やヒヤリハットの記録をすることにより、職員の共有を図っている。予測される危険については検討し、事故を未然に防ぐために対応を考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の防災訓練等で、消防の方にAED(自動体外式除細動器)等の救急対応等の指導をしてもらっている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練で、避難経路の確認をしている。また、運営推進会議等では、地域の方への協力をお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	考えられるリスクに対しては、状態、状況の報告等を常に行っているため、家族には説明、相談し、関わってもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや記録等で、必ず把握し、対応できるようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の担当職員をおき、薬についての各々の情報を分かりやすく、見やすいようにまとめ、変更のあった場合の周知は必ず全員にしている。服薬に関しても、チェック表に記入している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の時間を食事、おやつ以外にも設定し、また、オリゴ糖やヨーグルト、くだものは毎日摂ってもらい、薬に頼らず、排泄できるように支援している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきは、声かけにてできている。できない部分への介助は、もちろん行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や内容までまったく違うものは提供したことがないが、状態が悪ければ、医師、栄養士と相談し、指示をもらうようにしている。また、介護の方では、形態やメニュー等ができることがあれば、支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作り、把握している。指導があれば、職員全員が把握できるよう、ミーティング等で話し合っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ず、熱湯消毒や食洗器のヒーター等で熱処理をしている。また、冷蔵庫や調理器具の除菌にも心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーで入りやすくしている。また、季節の花などで家庭的な雰囲気に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雰囲気に合った有線をかけたり、カーテンや照明で明るさを調節している。音楽はよくかけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらもソファや椅子は決めていないが、離れた場所においてある物は、個々で居場所が欲しい人が使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前、入所後も、家族の方には馴染みの物が大事だと話をしているが、収納も少なく、必要最低限の物しか持ってきてもらえないのが現状である。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節には、特に気を使っている。入居者の意見を取り入れたり、各居室の温度計を活用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の施設であるので、今までに特に大きな問題はなかった。ただ、居室の家具等の配置は、個々によって状態が違うので、家族に相談して福祉用具を入れてもらったり、配置を変えたり、安全な動線は常に考えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安感を訴えたり、不安な言動、行動があった場合には、安心していただけるような声かけをしている。また、居室の入り口には入居者の写真、名前等、家族の了承を得て、掲示させてもらっており、自分の居室が確認できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは狭く、出入りは自由にできないが、季節に合った花などはプランターで育てている。建物の外周りはグループホーム独自では管理していないが、施設全体で共有しており、外出する際に見たり触れたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほほ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつまでも家庭生活の延長として、安心して暮らせる支援を心がけている。できる限り自然体で・・・